



2012年 1月13日

VOL. 62

とっとり・グローバルウォッチ

とっとり国際ビジネスセンター情報誌

中国・長春進出日系企業レポート【前編】 長春琦拉希亜信息技术有限公司 河田董事長

今や生活インフラの一つとして欠かせなくなったインターネット。ワールドワイドウェブ上のホームページ（ウェブサイト）は「組織の顔」や「サービスの窓口」として重要な役割を果たし、決しておろそかにすることは出来なくなった。ウェブサイトはまさに組織の営業窓口の側面を持っており、中小企業にとっても、使い方次第で大きなビジネスチャンスをつかみかけとなり得る。

そんなウェブサイトの構築と運営ノウハウを武器に、岐阜県から中国吉林省長春市に進出した日系企業「長春琦拉希亜信息技术有限公司」の河田董事長にお話を伺った。

■長春琦拉希亜信息技术有限公司について

2010年8月に独立資本にて設立。実質的に仕事が立ち上がったのは同年12月ごろから。社員は現在12人。うち日本人は河田董事長1人のみ。設立までの準備は3ヶ月という短期間で行われたものの、長春市政府の事務手続きで1ヶ月近く待たされるというトラブルがあった。



河田董事長

■まずは事業内容を教えてください。日本の本社の社名は「ちらし屋ドットコム」ですが、印刷業務をされていたのですか？

社名は「ちらし屋」ですが、印刷業務を手がけたことはありません。設立当初からWEBサイトの制作業務を行ってきました。岐阜県が2000年にITベンチャー支援施策を行っていた時に立ち上げた会社で、現在社員30人程度が、岐阜と名古屋で仕事をしています。

■中国国内受注の仕事と、日本で受注した仕事の割合はどうか？

日本の本社が裁ききれない仕事を中国でこなしているものもありますが、仕事の9割は中国国内受注の仕事です。最近（2011年7月ごろ）、ようやく長春での体制が整いましたので、日本本社のウェブサイトでも「中国市場向けのWEB販促支援を行います」とようやくアナウンスできるようになってきました。これからは在中の日系企業の仕事も積極的に取っていきたいです。

■仕事の受注の割合について、目標や目安はありますか？

どんなに価格が安くても3割は中国企業の仕事を維持しながら、日本とは異なる中国独特のマーケティング手法をノウハウ化して、日系企業とともに中国市場に切り込む仕事をしていきたい。一方で、日本型ビジネスのノウハウを中国ローカルの企業に導入する仕事にも取り組んでいきたい。

■中国での商慣習はかなり日本と異なりますので、コネも何もない日本企業が飛び込むのは難しいのでは？

やはり日本と同じ考え方ではやられてしまいますね。よって、普通は日系企業と取引することになる。我々の業界でも日系では無い現地ローカルの企業と仕事をしている企業は極めて少ないです。当社はまさに今チャレンジしているところでして、現状で中国企業20社程度と取引がありますが、今のところトラブルはありません。

目次

中国・長春進出日系企業レポート【前編】	P 1 P 2
現地発！ 台湾月刊レポート 55	P 3～ P 4
最新の上海 ～現地レポート～ 46	P 4
お知らせ	P 5

<次頁へ続く>

■なぜ長春に？

最初にこの場所（インキュベーター室）を勧めていただいたことが大きな理由です。確かに大連にもたくさんインキュベーター施設があるのですが、おそらく入居したらそれで終わり。優遇政策もあるでしょうが、人を採用する段階になると、この業界では全く優秀な人が採れない。他のIT企業がすぐに給与を上げて引き抜いてしまうのです。よって、我々のような中小零細企業は、残念ながら一から教育して育てないといけません。我々は中国に根付いて事業を行い、人材育成を含めてチャレンジしてみたかったので、この人材面を考慮して長春に決めました。

■長春は日本人が少ないものの、日本語を勉強している学生がとても多い。よって、大連、天津、上海など南に行かないと日本語を使う仕事になかなかつかないという状況です。なので、比較的日本語習得レベルの高い人材をここでは確保しやすい。また、朝鮮族も多く韓国語・朝鮮語環境が非常に優れている。中国語の面でも普通語に近い・・・。

中小企業としてこれからどうやって経営していけば良いのだろうと考えたときに、現在の日本の市場だけでは正直厳しい。何かを販売しようとしても中国市場は避けて通れません。世界レベルでも、アジア市場が牽引していく状況がすぐそこに来ている。そんなときに、韓国語だ、中国語だ、日本語だ、英語だと言っている場合ではない。我々中小企業も頭を切り換えて世界を相手にしていけないといけません。飛び込んでみると、現実やはり大変なんですけど・・・。

■長春は日系企業が少ないので、どうしても中国ローカルの企業との取引が中心となる。しかし、日系企業が少ないからこそ、入っていける分野も多いと。ただ、貴社の場合はコンテンツ制作ということで、インターネット環境が極めて重要になってくると思いますが、あまり良いとは言えない・・・。

これは、完全に長春にきてから分かったことですが、吉林省のルールがあまりにインターネットに対応していない。ホームページを作るときには中国当局の審査が必ず必要だが、このICP申請※というものを現在11社当社に任せられています。これらの許認可がここ最近厳しくなりなかなか降りない。

これはインターネット上での詐欺事件がとて多いという中国全体の問題が原因となっています。ただ、吉林省のインターネットインフラ環境が他の省に比べてとても遅いのはビジネスをする上で非常に困っています。せめて他の省レベルになれば問題ないのだが、正直、大連でもOKだから長春でも大丈夫だろうといった感覚で来てしまった。

※ICP：Internet Content Providerの略。中国政府が情報統制のために実施しているサイト審査制度。中国でのウェブサイトの公開に義務づけられています。

■自分も中国に来るまでは気がつかなかったのですが、中国では省にかなりのレベルで政策の独自性が委ねられており、自身の業界に関する規制の程度を事前に調査しておかないと、来てからその問題に気がつくことになる。他の場所で大丈夫だったからといって、他の省でも大丈夫だとは限らない。

というわけで、人材は確かに豊富なのですが、商圏、市場として捉えた場合、やはり都市部へと出て行かないといけないのかもしれませんが。長春は人材育成の場として捉えるとしても、他の都市に比べて決して裕福な街ではない。もちろん、長春にもお金を持っている人は確かにいて、桁違いにお金を持っているのですが。

■中国でのコンテンツの制作内容は？

スクリプト（※1）も含め、中国で必要なコンテンツ（※2）は全て中国で、現地のメンバーで制作します。

※1（スクリプト）：簡易なプログラムのこと。ここでは、ホームページ上での処理に利用するプログラムソース（文字列）を意味する。

※2（コンテンツ）：内容、中身のこと。ここでは、画像や文章など、ホームページを構成するデータを指す。



オフィスからは日本統治時代の建物が残る広場が見える

株式会社ちらし屋ドットコム ホームページ

<http://www.chirashiya.com/>

（インタビュー実施日：2011年7月8日、10月31日）

後編は次号でご紹介します。
お楽しみに！

現地発！台湾月刊レポート 55

台湾総統選挙についての影響

*本レポートは、1月6日時点のものです。

台湾総統選挙が1月14日に行われる。今回の選挙は台湾国内のみならず、日本、中国、ひいては、世界経済、政治にも影響を与えるビッグイベントである。注目していただきたい。

■立候補は三者

台湾総統選挙最終支持率が1月3日に発表された。今回の選挙には、三者が立候補している。与党国民党で現在、総統である馬英九氏（中国寄り、青がシンボルカラー）、民進党の蔡英文主席（女性、台湾独立派、緑がシンボルカラー）、そして親民党の宋楚瑜主席（中国寄り、オレンジがシンボルカラー）である。予想結果は、国民党よりの新聞「中国時報」では3%差で国民党の勝利、更に国民党よりの新聞「聯合報」では8%差で国民党の勝利、民進党よりの「自由時報」では、1%差で国民党の勝利と発表した。ほぼ互角とって良いだろう。総統選挙は、中国にとっても、日本にとっても、米国にとっても、アジア安定のためにも、深い影響を与える。単に台湾と中国との関係に留まるものではない。経済的、政治的、そして日本の運命を変えるかもしれない。

例えば、尖閣諸島帰属問題。日本、台湾、中国が帰属を主張している。私自身も歴史的観点でみて日本に帰属すると考えている。しかし沖縄は、微妙である。沖縄（台湾では、琉球と呼ぶ）について「中華民国（中国）が」帰属を主張していることをご存知だろうか。また日本からの独立国家とした見方もある。日本人（本土の人間）にとっては、日本の主権下で常識とと思っていることも他国や沖縄の人からみると違った見方も見えてくるのである。普天間基地問題で揺れている沖縄では、琉球独立派が眼を覚ましつつあると噂されている。将来、台湾のように独立、あるいは中国への接近・帰属を求める可能性も0%ではない。このような大きな地殻変動を起こす可能性を秘めているのが今回の台湾総統選挙だ。

■政権にかかる今後

では、どの政党が政権をとると、どうなるか。簡単に述べたい。国民党が政権をとることになると台湾は中国寄りとなる。将来的には台湾が香港化する。つまり中国の一部となる。日本と政治的に疎遠、関係が希薄化する。台湾独立派が粛清され台湾が独立することは不可能になる。経済的には、中国との経済発展とともにプラスとなる。

民進党が政権をとると、中国との関係が緊張する。親日的である。中国との経済発展の利益を得るという意味では、マイナスとなる。経済活動が減速する可能性がある。基本的には、独立を目指すため東アジア関係が緊張する。日本から見ると政治的には、民進党が良い。経済的には、中国との関係を見るとやや国民党が良い。台湾と経済的に発展できるのであれば、民進党が良い。世界経済全体では国民党が良い、ということか。なぜなら

ば、日本にも就航しているエバー航空（キティちゃんJetも就航）を所有する長榮グループの張榮發総裁は、蔡英文氏の表敬訪問を拒否した。従来彼は台湾独立派として見られていた。さらに張氏は同日、馬英九総統がかかげる中国・台湾の兩岸関係の原則「92年コンセンサス」への支持を表明。国民党支持をはっきりと示した。これは、中国とズブズブの関係になっている経済活動を変更することはできないと現実派路線に変更したということ。たぶん心理的には苦悩も有るのだろう。しかしこの衝撃は大きい。同様に、子会社でiPhoneを作っている鴻海精密工業グループの郭台銘・董事長も「国家経済には熟練したかじ取りが必要」と述べ、国民党馬総統を支持する姿勢を示した。台湾経済界巨頭が国民党を支持する姿勢を示したことは、中国との関係を緊密にしない限り台湾の経済発展もありえない。また工場、物流取引を中国に投資している以上、リスクを取れないという現実を示しているものである。

■Facebookによる活発な宣伝活動

話は変わるが、両候補は、共にFacebookでも宣伝合戦を繰り広げている。毎日の活動報告を行っている。台湾の選挙は、誹謗中傷が重点である。終盤になると相手のミスや政治活動汚職、賄賂、欠点などを重箱の角をつつくように執拗に攻撃し合う、見ていると陰湿な選挙戦になってくる。今回も様々な問題をつつき合い、そのたびに微妙に支持率の上下が見られる。当初優位に立っていた馬総統が最終的に互角の戦いになったのは、馬総統の中国との関係緊密を示す不用意な発言が契機となったもの。その発言を民進党が問題にした。現在のFacebookでは、女同志の戦いが重点。馬総統の奥さんと民進党蔡主席のオンナ度を示す戦いである。これは浮動票が多い女性支持者取り込みを狙ったもの。前回は、馬総統がカッコイイということで、女性支持者が増えたとも言われている。今回は、女性の観点から国策を担って欲しいというピュアな支持者層を取り込む意味でも宣伝をしている。Facebookの「いいね」という支持数を見ると面白いことが分かる。圧倒的に馬総統の数が多い。



民進党選挙対策本部（外観）の様子

<次頁へ続く>

パッと見であるが、馬総統には、1時間で一万人程度の支持数が出るが、蔡主席には、七千程度の支持しかない。インターネットを利用している若年層（40代以下）は、国民党支持ということが分かる。逆にネットをあまり利用しない台湾の過去をよく知る中高年層は、民進党支持ということだろう。他に今回の選挙では、蔡主席が客家人ということも話題になっている。



国民党のホームページ (<http://www.kmt.org.tw>)

【株スナーク 富田】

最新上海 ～現地レポート～ 46

上海小売市場 - 年末年始バーゲンセール -

鳥取県の皆様、2012年明けましておめでとうございます。

昨年は、ここ上海でも東関東大震災の影響を感じるが多かった。訪日中国人観光客の激減を始め、特に日本食品の輸入規制によりスーパーや百貨店の食品売り場からみるとメイドインジャパンの日本食品が姿を消していったことが特に印象的だ。昨年末には中国政府より、日本食品の貿易実務上の整備（輸入規制緩和）が発表され、さらに今年は、日中国交正常化40周年となる年であり、日中間の交流が活発化する年となることを期待したい。

さて、筆者の私見によると、日本の年越しといえ、自宅で家族と紅白歌合戦を見ながら年越しそばを食べ、除夜の鐘を聞きながら新年を迎えるというのが一般的かと思うが、ここ上海では百貨店やショッピングモールが深夜まで営業し、夜を徹したバーゲンセール、カウントダウンイベントを開催するところも多い。上海市商務委員会の発表データによると、12月31日から1月3日までの元旦連休4日間で、調査対象451社の中大型商業企業の売り上げは、昨年同期比17.6%増加の約63億3000万元となった。やはり4日間のうちでも売り上げのピークは1日で27億元に達している。

元旦や春節のバーゲンセールでは例年、第一八佰伴（旧ヤオハン、下記「ヤオハン」と略記）が売り上げ額トップで、今年の元旦セールでも百貨店単一店舗としては上海最大の売り上げで、初日の売り上げは4.8億元を記録した。売り上げは、去年よりやや下がったが、去年は元旦初日に集中的な大売出しセールを行ったが、今年は大晦日から2日までの3日間で客数を分散させるよう営業時間などを配慮したためだと思われる。上海では昨

客家人は、戦後大陸から来た国民党支持の外省人、民進党支持が多い本省人とも異なる客家人という一群である。ちなみに元国民党台湾総統の李登輝氏、タイのタクシン元首相も客家人。これをベースに従来国民党支持が多い客家人を民進党に呼びこもうとしている。ちなみに李登輝元総統は、民進党蔡主席支持を表明している。今回、最も波乱要素が泡沫候補である宋楚瑜主席の動きである。国民党に近い政党でありながら、現内閣に入れてもらえなかったということで、イヤガラセのように立候補。本来であれば、国民党に投票すべき人たちが、宋楚瑜主席に5%程度投票すると、馬総統の落選するとも言われている。そういう意味では見逃せない。総統選挙日は、1月14日。台湾友人たちの勝利予想も「わからない」である。私の予想は、薄氷で国民党馬総統の勝利。ただし過去毎回、銃撃事件が発生し浮動票が動くので何も発生しなかった場合のことだ。ぜひ、注目していただきたい。

年12月初旬、巴黎（パリ）春天百貨の各店舗において、48時間連続バーゲンセールを行い、店舗には客が殺到し混乱状況になったこともあり、公安当局は各百貨店にバーゲンセール時の安全対策強化を呼びかけていた。そのため、ヤオハンでは営業時間の分散化のほか、レジを通常の2倍である190箇所増設し、300人の警備員を配置したようだ。

中国人のショッピング熱は国内に留まらない。中国のお正月は、旧正月（春節）とよばれる旧暦のお正月で、この時期は1週間の大型連休になる。一方、1月1日の元旦節は3日程度の短い連休であるため、香港、マカオ、台湾、日本、東南アジアといった比較的近い海外へ旅行する人が急増している。特に人気の観光地は香港と日本で、彼らの多くが年末バーゲンセールをめがけたショッピング族なのである。香港の入境事務局の発表によると、昨年12月31日から今年1月2日までの3日間で、香港を訪れた大陸からの観光客は昨年同期比17%増加の約27万5000人で、この人数は全体観光客の23%を占めている。また、中国旅行研究院の調査によると、元旦連休中の海外旅行先としては、約半数が日本への旅行を希望しているようだ。

2012年は辰年。中国では古来、龍は皇帝のみに許された紋章・称号で、中国人は現代でも干支を大変重視している。辰年に出産計画を立てている中国人の友人もいるほどだ。今年、日本そして、鳥取県の企業の皆様が昇り龍の如くご発展、ご活躍されることを心から祈りつつ、今年も上海を中心とした中国のビジネス現場情報をお届けしていきたい。

今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

【株チャイナワーク 孫】

お知らせ

パリ食品輸出商談会のご案内

ジェトロでは、日本産食品の海外販路開拓支援の一環として、フランス・パリで現地流通業者向けの展示商談会を開催します。

★日時

(1) 2012年2月23日(木)

13時30分～18時00分

(2) 2012年3月6日(火)

13時30分～18時00分

* イベントの内容は同じですが来訪するバイヤーが異なる可能性があります。

★定員：各日20社・団体

★商談相手(予定)：在フランス食品輸入業者、高級百貨店、スーパー、レストラン等のバイヤー

★申込締切：2012年1月17日(火)

★詳細、問合せ先：

ジェトロ農林水産・食品企画課

(担当：井澤、米山)

TEL：03-3582-4966

FAX：03-3582-7378

サウジアラビア 「環境・エネルギー-商談視察ミッション」 参加者募集のご案内

ジェトロでは、環境・エネルギー関連の日本企業で構成するミッションをサウジアラビアに派遣し、政府関係機関および企業への訪問、技術紹介セミナー・商談会を実施します。

★日時：2012年3月2日(金)

～8日(木)

★場所：サウジアラビア王国・リヤド州

および東部州

★参加費：無料

※航空券費、査証費、宿泊費等現地滞在費は自己負担。また、宿泊ホテル、現地活動に関する手配は、原則ジェトロが行います。

★申込締切：2012年1月20日(金)

★詳細、問合せ先：

ジェトロ環境・エネルギー課

(担当：常味(つねみ))

TEL：03-3582-4877

FAX：03-3582-7508

ミャンマービジネスセミナー 開催のご案内

約20年ぶりに総選挙が実施され軍事政権が幕を下ろしたミャンマーは新政権が改革を進め、米国のクリントン国務長官が訪問するなど大きく変化し始めています。ジェトロ神戸とアジア経済研究所は、神戸商工会議所との共催により、ミャンマーの最新政治経済動向・投資環境をテーマとしたセミナーを開催します。

★日時：2012年1月20日(金)

13時30分～16時30分

★場所：神戸商工会議所3階会議室

★参加費：無料

★定員：50名(先着順)

★申込締切：2012年1月18日(水)

★詳細、問合せ先：

ジェトロ神戸(担当：春田)

TEL：078-231-3081

FAX：078-232-3439

編集後記

元日、初詣に行きました。朝から風もなく雪や雨も降っていませんでしたので、たくさんの方が来ていました。そこは、私が小さい頃から、初詣はもちろん、七五三などでもお参りをしている神社で、境内左手には樹齢1000年と言われる大イチョウの木があり、その重量感のある大イチョウを見上げると、いつも懐かしく、また神聖な気持ちになります。

ここ10年以上、年末年始は海外で過ごすことが多かったのですが、こうしてゆっくりと日本のお正月を過ごす、やっぱり日本人でよかったなと心から思いました。

【zao】



本誌「とっとり・グローバルウォッチ」では、皆様から、内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしておりますのでお気軽にお寄せください。

お問い合わせ：財団法人鳥取県産業振興機構 とっとり国際ビジネスセンター

《本 部》境港市竹内団地255-3

TEL：0859-30-3161 FAX：0859-30-3162 E-mail：kaigai@toriton.or.jp

《東部窓口》鳥取市若葉台南7-5-1

TEL：0857-52-6757 FAX：0857-52-6782 E-mail：kaigai@toriton.or.jp